

第63回 設備管理全国大会

設備管理・技術カンファレンス



設備管理を制する者はモノづくりを制す！

これからの担う設備管理エンジニアの姿を考える。

日程

2025年3月6日[木] ▶ 7日[金]

会場

浅草橋ヒューリックホール & カンファレンス

2階 HULIC HALL・3階 ROOMO

(JR 総武線・都営浅草線「浅草橋駅」より徒歩2分)

大会テーマ

- 具現化される設備管理DX
- サステナブルな設備管理(人づくり・体制づくり・保全技術)
- 設備管理エンジニアの将来像とは

発表企業・団体

※ 企業名50音順、法人格略

ICUS

いすゞ自動車

出光興産

イビデン

AGC

九州工業大学

COBALT

ジャトコ

トヨタ自動車

豊田自動織機

日産自動車

富士フイルム
エンジニアリング

マツダ

LIXIL

日本プラントメンテナンス
協会

発表テーマ

- ◆ 設備管理に使われるDX
- ◆ 設備管理におけるマネジメント
- ◆ カーボンニュートラルと設備管理
- ◆ 人財育成・技能伝承
- ◆ 進化する設備保全・保全技術
- ◆ モノづくり環境変化に対応するTPM活動

参加お申込み

専用サイト<<https://info-jipm.jp/event/management/>>の”参加お申込み”から



	時間	2階 HULIC HALL	3階 CONFERENCE ROOM 0
-	09:30	開場・受付開始	※ 2階HULIC HALLにて受付をします
-	10:00 ▼ 10:15	開会のあいさつ	※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください
1	10:15 ▼ 11:05	<p>激変する時代のsmart保全</p>  <p>富士フィルムエンジニアリング株式会社 足柄本社 エンジニアリング事業部 テクニカルアドバイザー (設備管理全国大会副委員長)</p> <p>吉田 信行</p> <p><発表キーワード> 設備の管理方法/基準の見直し・デジタル技術を利用した改善・予防保全/予知保全</p>	
2	11:15 ▼ 12:05	 <p>ドローンを活用した設備点検の高度化について</p> <p>出光興産株式会社 生産技術センター システム高度化技術室 主任部員</p> <p>松尾 耕三</p>  <p>生産技術センター エンジニアリング室 主任部員</p> <p>小倉 剛</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化/容易化・設備の信頼性向上・デジタル技術を利用した改善</p>	<p>次世代設備管理エンジニア育成のしくみ</p>  <p>イビデン株式会社 大垣事業場 生産統括部設備管理部 部長</p> <p>高山 勝</p> <p><発表キーワード> 改良保全・設備の管理方法/基準の見直し</p>
-	12:05 ▼ 12:50	昼休憩 (お弁当をご用意いたします)	※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください
3	12:50 ▼ 13:40	<p>デジタル技術と機械学習による革新的設備管理への挑戦</p>  <p>株式会社豊田自動織機 本社機構 PE部動力室動力保全課 スタッフリーダー</p> <p>荒木 直樹</p> <p><発表キーワード> 設備の管理方法/基準の見直し・予防保全/予知保全・改善活動の水平展開</p>	<p>ドローン及びロボットを活用したプラント設備管理の業務効率化</p>  <p>株式会社COBALT ドローン、ロボット活用企画 活用企画担当</p> <p>大山 勝彦</p> <p><発表キーワード> 設備の信頼性向上・作業の効率化/容易化・予防保全/予知保全</p>
4	13:50 ▼ 14:40	<p>地道に積み重ねた保全力とデジタルの融合で造る設備保全の未来</p>  <p>マツダ株式会社 本社工場 第3パワートレイン製造部 素材工務技術グループ マネージャー</p> <p>正木 久</p> <p><発表キーワード> 設備の信頼性向上・予防保全/予知保全・デジタル技術を利用した改善</p>	<p>海外生産拠点における計画保全のための人財育成</p>  <p>AGC株式会社 生産本部 基礎技術統括部 技術イノベーショングループ</p> <p>佐久間 光一</p> <p><発表キーワード> 計画保全・人財育成</p>
5	14:50 ▼ 15:40	<p>日産自動車実践する設備ドカ停リスク管理活動</p>  <p>日産自動車株式会社 座間事業所 車両生産技術開発本部 プラント・メンテナンスエンジニアリング部</p> <p>山根 宏貴</p> <p><発表キーワード> 設備の管理方法/基準の見直し・予防保全/予知保全</p>	<p>※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください</p> 
-	15:40 ▼ 16:25	発表者との交流会	

	時間	2階 HULIC HALL	3階 CONFERENCE ROOM 0
-	09:30	開場・受付開始	※ 2階HULIC HALLにて受付をします ※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください
-	10:00 ▼ 10:15	開会のあいさつ	
6	10:20 ▼ 11:10	<p>保全中期マネジメント戦略について</p>  <p>株式会社LIXIL 名張工場 ドア製造課工機保全 係 係長 岩切 俊輔</p> <p><発表キーワード> 予防保全/予知保全・デジタル技術を利用した改善・設備の管理方法/基準の見直し</p>	<p>経営環境の変化(SCM・CN・DXなど)から考えるこれからのモノづくり</p>  <p>公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 企画管理・調査研究部 マネージャー 長澤 祐佐</p> <p><発表キーワード> 設備の管理方法/基準の見直し・デジタル技術を利用した改善・自主保全</p>
7	11:20 ▼ 12:10	<p>工場における見えないリスクへの取組ーインフラ設備の経年劣化事故防止への挑戦ー</p>  <p>ジヤトコ株式会社 事務本館3F 工務部工務課 プロフェッショナルスタッフ 渡邊 仁</p> <p><発表キーワード> 予防保全/予知保全・設備の管理方法/基準の見直し・人財育成</p>	<p>コンピテンシマネジメントによる設備保全人材の業務効率向上と安全性の確保</p>  <p>九州工業大学 工学部 機械知能工学科 客員教授 堀田 源治</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化/容易化・安全・人財育成</p>
-	12:10 ▼ 12:55	昼休憩 (お弁当をご用意いたします)	※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください
8	12:55 ▼ 13:45	<p>設備管理DX 頭上搬送コンベア レール摩耗自動測定装置の開発</p>  <p>いすゞ自動車株式会社 藤沢工場 PT製造部第三部 製造技術G 村上 雄一</p> <p><発表キーワード> 予防保全/予知保全・設備の信頼性向上・作業の効率化/容易化</p>	<p>石油化学設備流体のHSP解析とファウリング洗浄実績の紹介</p>  <p>株式会社ICUS 本社 CTO 関根 智一</p> <p><発表キーワード> 作業の効率化/容易化・コストダウン・環境/省エネルギー</p>
9	13:55 ▼ 14:45	<p>【夢工場】に向け製造現場の働き方改革を通じた人財育成</p>  <p>トヨタ自動車株式会社 上郷工場 エンジン製造部 グループ長 渡辺 照久</p> <p><発表キーワード> 人財育成・デジタル技術を利用した改善・予防保全/予知保全</p>	※ この時間は、2階HULIC HALLにお越しください
10	14:55 ▼ 15:40	<p>パネルディスカッション 設備管理エンジニアの将来像とは (大会まとめ)</p>  <p>設備管理全国大会 企画委員会</p>	 
-	15:40 ▼ 16:25	発表者との交流会	

HULIC HALL	激変する時代のsmart保全 富士フィルムエンジニアリング 株式会社 足柄本社 エンジニアリ ング事業部 吉田 信行 テクニカルアドバイザー (設備管理全国大会副委員長)	ROOM 0	ドローン及びロボットを活用した プラント設備管理の業務効率化 株式会社COBALT ドローン、ロボット活用企画 大山 勝彦 活用企画担当
	写真フィルムという主力製品の喪失で、廃業の危機に見舞われた富士フィルムは、新たな成長戦略で第二の創業を進めている。保全もこれに合わせて、安定稼働を維持しながらコスト削減を強力に推進すべく、それまでの体力勝負の予防保全から、最新の技術を活用した、合理的で賢いsmartな保全へ転換した事例を紹介する。		プラント設備管理業務の現状と、業務効率化に期待されるドローン及びロボットの運用状況と課題及び業務効率化に適応していくために有効な活用に関して対応策の御紹介とともに、ドローン及びロボット収集データを含めたデータのデジタル化と、今後のプラント設備管理に活用が必要となる一元管理についても紹介する。
HULIC HALL	ドローンを活用した設備点検の高度化について 出光興産株式会社 生産技術センター システム高度 化技術室 主任部員 松尾 耕三 生産技術センター エンジニアリ ング室 主任部員 小倉 剛	HULIC HALL	地道に積み重ねた保全力とデジタルの融合 で造る設備保全の未来 マツダ株式会社 本社工場 第3パワートレイン製 造部 素材工務技術グループ 正木 久 マネージャー
	出光興産株式会社では、ドローンを活用した設備点検の高度化を推進しており、その具体策の一つとして、主に高所におけるタンクエリア設備点検や防災活動での活用を進めている。さらに、点検中においてもガス漏洩検知ができるようにドローンにガス検知器を搭載した活用検討を進めており、本発表ではそれらの概要について紹介する。		マツダでは永く設備を活用するため設備の保守管理の内製化を進めている。若手社員のスキル向上につなげ、さらにはデジタルを活用し老朽による多様な問題解決をすることで、現場力・保全力の向上、そして人づくり、仲間づくりへと結び付け、より高い課題解決につなげている。その活動を鍛造プレスラインの事例にて紹介する。
ROOM 0	次世代設備管理エンジニア育成のしくみ イベデン株式会社 大垣事業場 生産統括部設備管理 部 部長 高山 勝	ROOM 0	海外生産拠点における計画保全のための 人財育成 AGC株式会社 生産本部 基礎技術統括部 佐久間 光一 技術イノベーショングループ
	設備の保守メンテ、維持管理に携わる設備管理エンジニアの育成方法と収益に直結した活動の軌跡。設備保全の思考やマインドを人財育成を基軸に進化させていく取組みを紹介する。		拡大を続ける海外生産拠点において、優秀な人財の確保・育成が課題となっており、如何に「計画保全」を進化させ、競争力を向上させるかが課題となっている。国内においては共通語として「計画保全」の認識があるが、海外拠点においてもこの認識を共有化すべく「計画保全」の教育を実施すると共に、各拠点の保全水準評価を行い共通認識の元、改善すべき課題を見出し支援につなげていく。この事例について紹介する。
HULIC HALL	デジタル技術と機械学習による 革新的設備管理への挑戦 株式会社豊田自動織機 本社機構 PE部動力室動力 保全課 スタッフリーダー 荒木 直樹	HULIC HALL	日産自動車実践する 設備ドカ停リスク管理活動 日産自動車株式会社 座間事業所 車両生産技術開発本 部 プラント・メンテナンスエン ジニアリング部 山根 宏貴
	PE部では工場全体へのエネルギー供給しており、設備故障は工場全体の生産を阻む。故障原因追及と対策は進むも完全解消せず。機械学習手法の比較検証で、標準偏差管理と主成分分析とMT法の組合せが有効と判断し実装し予兆保全の運用を開始した事例について紹介する。		日産では設備のドカ停を防ぐため、劣化度・生産負荷などの設備状態に基づくリスク管理活動を進めている。一例として、プレス工程では全拠点のプレス機を同一基準で評価し、優先度に基づき「精密点検」「劣化復元・修理」を効率的に実行することで、リスク低減に繋げている。本発表ではプレス工程を題材に、日産が取り組むドカ停リスク管理活動を紹介する。

<p>6</p> <p>HULIC HALL</p>	<p>保全中期マネジメント戦略について</p> <p>株式会社LIXIL 名張工場 ドア製造課工機保全係 岩切 俊輔 係長</p> <p>2030年に向けての課題を洗い出し実践していく中での課題の取り組みである。リソースの工数が不足するのでまず業務効率化を図るため、計画的にベース教育を実践し業務効率化ツール各種を内製化し導入することで工機保全の分析・入力工数を削減し、そのデータを使い設備のライフコスト管理ツールを導入した事例を紹介する。</p>	<p>8</p> <p>HULIC HALL</p>	<p>設備管理DX 頭上搬送コンベア レール摩耗自動測定装置の開発</p> <p>いすゞ自動車株式会社 藤沢工場 PT製造部第三部 村上 雄一 製造技術G</p> <p>従来の頭上搬送コンベアのレール保守管理は、レール下を人が歩きながら目視に頼った点検を実施してきた。設備トラブルを契機に、稼働を止めずに、コンベアに搬送されながら自動で点検診断する装置の開発を行った。実機で測定したところ、従来分かっていなかったレールの摩耗特性の違いが判明した。設備管理DXの具体例として紹介する。</p>
<p>6</p> <p>ROOM 0</p>	<p>経営環境の変化(SCM・CN・DXなど)から考えるこれからのモノづくり</p> <p>公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 企画管理・調査研究部 長澤 祐佐 マネジャー</p> <p>約半世紀にわたり、モノづくりともに歩んできたTPMは、経営目標の達成、生産革新の手段としてグローバルの展開・進化が盛んである。本講演では、経営主導による力強い取組みから、SCMや、CN、DXなどの活動について特徴や事例、成果を紹介するとともに、これからのモノづくり・TPMを考察する。</p>	<p>8</p> <p>ROOM 0</p>	<p>石油化学設備流体のHSP解析と ファウリング洗浄実績の紹介</p> <p>株式会社ICUS 本社 CTO 関根 智一</p> <p>石油化学設備流体のHSP（ハンセン溶解度パラメータ）を解析し、洗浄剤を選定した。この洗浄剤を当該流体由来のファウリング（汚れ）に適用した結果、高い除去効果が得られた。本法は、実際のファウリング採取や洗浄剤を使用した溶解試験を実施することなく、流体の簡易解析のみで机上で洗浄剤を確定できる手法である。この事例について紹介する。</p>
<p>7</p> <p>HULIC HALL</p>	<p>工場における見えないリスクへの取組 —インフラ設備の経年劣化事故防止への挑戦—</p> <p>ジャトコ株式会社 工務部工務課 渡邊 仁 プロフェッショナルスタッフ</p> <p>世の中では、インフラ設備の老朽化により、インフラ設備や建屋が損傷し、トラブル影響が増加している。弊社でも、戦前の工場を抱えており、老朽化が原因の事故が増加している。それら事故を事前に予防する為、パトロールを行いリスクの現状確認を実施した。そこでの気づきにより、経年劣化へ対応する改善活動を開始した。その活動について、事例と共に活動内容を紹介する。</p>	<p>9</p> <p>HULIC HALL</p>	<p>【夢工場】に向け製造現場の働き方改革を通じた人財育成</p> <p>トヨタ自動車株式会社 上郷工場 エンジン製造部 渡辺 照久 グループ長</p> <p>鑄造工場の将来像【夢工場】を描いたロードマップを活用しながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルの人財育成を進める為、推進する人、つくる人、活用する人に分け可視化する活動 2. これまでの概念を捨て、製造、保全、技術員室の垣根をこえ、製造しながら保全や改善できる体制を整える活動 3. グローバルでの情報共有を進める活動を紹介します。
<p>7</p> <p>ROOM 0</p>	<p>コンピテンシーマネジメントによる設備保全人材の業務効率向上と安全性の確保</p> <p>九州工業大学 工学部 機械知能工学科 堀田 源治 客員教授</p> <p>非常定作業においては災害や失敗が多発している。そこで予め担当者（個人やグループ）のコンピテンシー（行動特性）が把握できれば作業に先立ち業務への適正さを管理者が判断することが可能になり、失敗や災害を減少させることができる。本発表ではコンピテンシーの把握と管理による業務の効率化について紹介する。</p>		

設備管理全国大会とは？

- 設備管理全国大会は設備管理における本格的な技術発表会として開催回数60回を超える歴史ある大会です。(2021年度:第60回記念開催)
- 保全・工務・設計・生産技術・製造等の管理者・スタッフ・経営幹部の方々の設備管理に関する意識向上、進化に寄与すべくプログラムの構成をおこなっています。設備管理に関わる方々の地位向上、設備管理の課題解決の一助となる大会を目指し、「設備管理全国大会」を開催しております。

第63回 大会テーマ

第61回大会

- DX時代の設備管理への「挑戦」
- カーボンニュートラル×設備管理の考え方
- 考動できる人財の育成

第62回大会

- 具現化される設備管理DX
- カーボンニュートラルに挑戦する設備管理
- 激変する時代の人づくり・体制づくり

第63回大会

- **具現化される設備管理DX**
- **サステナブルな設備管理**
(人づくり・体制づくり・保全技術)
- **設備管理エンジニアの将来像とは**

- 第63回大会テーマは、これまでの大会テーマを継承しつつ、新たなテーマを立ちあげました。
- とくに、第61回大会より議論をしていた「**設備管理エンジニア**」を3つ目の大会テーマとして掲げ、設備管理の重要性の再認識や、ステータス向上を目指します。
- 今大会では、「DX」「サステナブル」「**設備管理エンジニア**」をキーワードとして、これからの時代の「**設備管理のあるべき姿と人物像**」を発信していきます。

設備管理全国大会 企画委員ご紹介

- 委員長
山口 正人 (富士フィルム株式会社)
- 副委員長
吉田 信行 (富士フィルムエンジニアリング株式会社)
重藤 祐二 (ポッシュ株式会社)
- 委員
越智 則夫 (出光興産株式会社)
大山 邦利 (JFEスチール株式会社)
川瀬 直広 (株式会社デンソー)
吉田 誠 (日産自動車株式会社)
松田 善介 (公益社団法人日本プラントメンテナンス協会)

開催会場・アクセス

浅草橋ヒューリックホール & カンファレンス 2階 HULIC HALL・3階 ROOMO

(〒111-0053)

東京都台東区浅草橋1-22-16

ヒューリック浅草橋ビル)

- JR総武線「浅草橋駅(西口)」より徒歩1分
- 都営浅草線「浅草橋駅(A3出口)」より徒歩2分
- ※駐車場のご用意はありません。
- ※公共交通機関をご使用のうえご来場ください
- ※アクセス情報

<<https://hulic-hall.com/access/>>



参加お申込み

専用サイト<<https://info-jipm.jp/event/management/>>
の”参加お申込み”から



参加料(上段:税込み価格、下段:本体価格)

	両日料金	片日料金
会員価格*1	¥52,800-/名 (¥48,000-/名)	¥40,150-/名 (¥36,500-/名)
一般価格	¥63,800-/名 (¥58,000-/名)	¥51,150-/名 (¥46,500-/名)
TPM経営者 懇話会会員価格*2	ご招待	ご招待

- 参加料には、昼食・テキスト(資料)代が含まれています。

※1 会員価格の適用には、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会(正会員・事業所会員)、もしくは一般社団法人日本能率協会(法人会員・協賛団体会員)の会員であることが必要です

- ・公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
<<https://www.jipm.or.jp/company/memberlist/>>
- ・一般社団法人 日本能率協会
<<https://list.jma-member.com/>>

※2 TPM経営者懇話会会員価格の適用には、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 TPM経営者懇話会の会員であることが必要です

会員以外の方は、
この機会にぜひ当会会員へのご入会をご検討ください

参加申込方法・参加料支払方法

- 派遣窓口ご担当者、および参加者が「参加申込み規定」に同意したうえで、上記の専用WEBサイトよりお申込みください。FAXでのお申込みはできません
- 複数名でのご参加をご希望の場合も、上記の専用WEBサイトにて一括お申込みが可能です
- お申込みの際は、本紙ならびにお申込みWEBサイトに記載の注意事項の内容をよくご確認のうえお申込みください
- 参加申込みは、開催前日まで受付いたしますが、テキスト(資料)・昼食(お弁当)などご用意できないこともございますので、お早めにお申込みください
- 開催日2週間前より窓口ご担当者あてに請求書をメールにてお送りいたします。請求書に記載の入金期日・銀行口座にお振込みください。なお、振込に関わる手数料は貴社にてご負担ください
- キャンセル規定
開催当日～7営業日前の参加取消し:参加料全額
※2025年2月27日(木)よりキャンセル不可となります
※キャンセル・変更は、以下URLよりお願いいたします
<<https://info-jipm.jp/contact/>>
お問い合わせ>イベント申込み後のお問い合わせ

■録音・録画・撮影、およびSNSへの投稿は禁止です。守られなかった場合、著作権・肖像権侵害として対処することがございます。また今後の参加をお断りすることがございます

■免責事項
天災地変や伝染病の流行、大会会場・輸送等の機関のサービスの停止、官公庁の指示等の当会が管理できない事由により大会内容の一部変更および中止のために生じたお客様の損害については、当会ではその責任を負いかねます

■個人情報に関する取り扱いについて
ご記入いただいた個人情報は、当大会の運営・管理・資料送付、出欠の確認等に利用いたします。また、後日、当会より事業・サービス・セミナー等のご案内を送付させていただきます場合がございます。当会は、ご提供いただいた個人情報を当会のプライバシーポリシーに則って安全対策を施し適切に管理いたします。当会のプライバシーポリシー、個人情報の開示・訂正・削除等の詳細につきましては、当会ホームページ(<https://www.jipm.or.jp/>)をご覧ください



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会

Japan Institute of Plant Maintenance

設備管理全国大会企画委員会

TEL:0120-451-466(または03-6865-6081)

E-mail:EVENT@jipm.or.jp

お問合せは、普及推進部まで